

いつでも人生は  
あなたの真実の色で輝く

50歳代グラントップファイナリスト 近藤美保

ミセス日本グランプリ  
第5回ミセス日本グランプリ出場者の手記



<http://www.mrs-nippon-grandprix.com>

## 目次

- 一・生い立ち
  - ・大自然の中で
- 二・想像もしていなかつたこと
  - ・普通に憧れて・・・
- 三・今の私
  - ・色の持つ不思議さに魅せられて
  - ・自然な食の大切さ
  - ・カラーを活かす
  - ・パーソナルカラーコンサルティング
- 四・これからの私

## 生い立ち

### 大自然の中で

私は大分県湯布院町で生まれました。

今の湯布院は行つてみたい温泉のトップになるほど有名な観光地ですが、私が生まれた頃は奥別府と呼ばれる、ひなびた田舎の温泉地でした。

豊後富士と言われる由布岳の麓の町は、登山客が登山の後に温泉に浸かるために訪れるのどかな所でした。



私の実家は金鱗湖と言う小さな湖のすぐそばに有りました。近くの湯布院を代表する名旅館、亀の井別荘周辺が子供の頃の遊び場でした。

私はこのような、大変のどかなところで生まれ育ちました。

私は母から生まれた時の話をたくさん聞いています。

三年前に母をなくした私は、生まれた時のことと母に聞いていて本当に良かつたと思っています。

母によると初産にもかかわらず、予定日を過ぎてもなかなか産まらず、お腹の中で大きく育つており難産だったということです。



昔としては珍しく出産に立ち会つた父が赤ちゃんじゃなく紫ちゃんだつたけど息を吹き返したよと言つていきました。

父曰く、仮死状態から生還したそうですが・眞偽のほどは怪しい気がします。いずれにしても出生はドラマチックであつたのは間違ひありません。

実家にとつては待望の初孫で蝶よ花よと我が儘いっぽいに育てられましたが、2年後弟が生まれると事態は急変します。

男尊女卑の風潮も残つていた田舎で、長男誕生に伴い私はチヤホヤされなくなり、注目は弟に集中しているように感じた私は、弟に対して凄まじいヤキモチを焼いていたようです。

恥ずかしい話ですが、子供の頃の私は喜怒哀楽が激しく一言で言えば野生児そのものでした。

湯布院の自然の中には遊び場は沢山有り、毎日近所のお姉さんに遊びを教わつて一緒に遊んでいました。

小川をせき止めて池を作り捕まえた魚を入れてみたり、食べられる草や野イチゴ探したり、ネイチャーゲームそのものです。

育つたベースが自然の中にあるというのは大変恵まれていたと思います。  
何も難しいことは考えずに感じるままに生きていました。

小学校に入るまでは自然を満喫した黄金時代でした。

## 集団生活に馴染めない

小学生になつても、思ったことはなんでも言葉にし、そのため誤解されたり、人を傷つけたり、だんだんと集団の中でうまくいかないことが多くなり、遂にはいじめの対象になつてしましました。

小学校3、4年の頃、子供ながら心労で痩せてしまい、その姿をお風呂で見て、こんなに痩せてしまつてと母が泣いていたのを覚えてています。

上履きを窓から捨てられたり、100点の答案を私の手に渡る前に誰かが書き換え、「先生～美保ちゃん間違ってるのに100点になつているよ～」と先生に持っていくという事件も起きました。

先生は「そうね」とあつさりバツを付け、100点の答案を消して85点に書き換えました・私は今でもその問題を覚えていています。

「簡単だつた」なんて得意気に私が言っていたのを癪にさわると思つたクラスメートがやつたのは間違いありません。

このことを学校から帰るとすぐに母に泣きながら話すと、体調が悪く寝込んでいたにもかかわらず、母は学校に行き先生に話してくれました。

この時先生は、「私のクラスに人の答案を書き直すような悪い子供がいるとは思いたくない、私が採点を間違ったと思いたい。」と言われたそうです。

「では、うちの子供が嘘をついているというのですか?」と母は聞いたそうです。

そうするとこの先生は「美保さんの勘違いじやありませんか? そのほうが丸く收まります。」と言われたそうです。

採点したのは先生なのに、先生は大人として自分のしたことに責任を取つていないと母の怒りは大変でした。

普段自分から人に意見することのない、大変控えめで大人しい母が私の訴えを聞いてくれて必死で守ってくれました。

母は世界中が敵になつても絶対に味方になつてくれる存在でした。

私は本当に愛されていましたし、自分が母から愛されたように子供も愛していました。こうと思った原点はここにあつたかもしません。

今思うのは、私がもっと周りの人の心を考えた行動ができれば、このようなことは起らぬ、母や先生にも迷惑をかけることもなかつたということです。今は亡き先生と母に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

高学年になると人付き合いのむつかしさに人と向き合う事に臆病になり、本の世界に夢中になりました。

その頃の愛読書は日本の古典を現代語に訳した。児童古典文学全集でした。

本文は現代文に訳されていますが、和歌の部分だけは古語ですので、まるごと暗記していました。

万葉集から古今和歌集まで暗記している変わった小学生でした。百人一首のかかるところは大人にも負けませんでした。

もうひとつ愛読書は美術全集でした。特に私のお気に入りはモネでした。

同じ建物を時間の変化とともに全く違う色で描いた作品に衝撃を受けたのをおぼえています。

色は光で異なつて見えるんだ、木は緑とは限らないんだということを発見して感動しました。

中学・高校は部活動もせず、ひたすら勉強しました。勉強して良い成績をとつて両親に喜ばれたいただそれだけでした。

今思うと自分の将来に対し、もつときちんとした考えがあつても良かつたと思うのですが、子供のためにと朝から晩まで休むことなく働き、何があつても味方になつてくれ、テストの時には一緒に起きててくれる教育熱心な両親の期待に応えたいそれしかありませんでした。

美術関係に進みたい。という考えがチラリと頭をかすめましたが、進学校で一般的な受験に力を入れている高校でしたので結局国立大学の医学部を受験することになりました。二年も浪人し、模擬試験でA判定をもらっていた大学の受験にも失敗し、自分には無理と国立大学の医学部を諦め、慶應義塾大学の経済学部を、得意の数学と英語で受験し入学しました。

中学、高校、浪人と勉強漬けでしたので、その反動か、のんびりと大学4年間を過ごしました。

## 第一志望の企業に就職

世の中がバブルに向かうちよつと前の頃で、就職の氷河期も終わり始めていました。

そんな中、就職は第一希望の会社に決まりました。

大学時代、受験勉強の反動から、のんびり過ごしたので、会社の仕事は辛くて何度も人知れず涙をこぼしました。

仕事が終わらず会社に泊まり込み警備のおじさんから驚かれたこともありました。

会社は女性にも責任ある仕事をどんどんさせる会社でしたので、マーケティング営業、広告制作、ショウルームの運営責任者、商品開発と様々な部署を経験しました。

商品開発は一番希望していた職種なので、水を得た魚のように、毎日が楽しく仕事も順調でした。

## 想像もしていなかつたこと

大学の同級生と友人の紹介で出会い、結婚して2年たち、そろそろ子供が欲しいと思っている時に妊娠し、当時子供を産んで働き続ける環境が整つていなかつたため会社を退職しました。

仕事も大変順調でしたので、子供を出産しても、何らかの形で仕事に復帰しようと思つていました。

安産で女の子が生まれました。

第一子を出産してすぐに仕事に復帰しようと思っていたのですが、一人っ子ではなく兄弟がいたほうが良いのではと思い、続けて第二子を出産しました。



## 普通に憧れて

第二子は男の子でした。

この子は大変おとなしく子育ても楽に感じていましたが、なかなか言葉を話しません。2才になつても話せる言葉が2、3個しかなく、発達検査をすることになりました。

検査の結果、コミュニケーションの面で遅れがあるものの、認知力はあるとの事でした。

完全に障がいがあると宣言されたわけではありませんが、何故か断言を避けられるい るようで嫌な感じがしました。

育っていく過程でこの子は自閉症だと誰に宣言されることもなく分かつてきました。

大人しかつたのは赤ちゃんの間だけで、成長するにつれて、こだわりがひどくなり認知力もかけているので、しばしば行方不明になつたり高いところ高いところと登つたり一瞬も目を離せない状況が重なつていきました。

主人も会社の仕事や、別の会社を経営していた義父の急死に伴う諸々の手続きに忙殺され、子供にかまつてられる状況ではありませんでした。

この頃の私の毎日は本当に灰色だったと思います。まだ障がいがあると分かる前の、赤ちやんだつた下の子の笑顔の写真を見ては、どうしてこんなことになつたのか、私が何をしたというのかと泣いていました。

子供の小さい頃は普通のお子さんと違うことが辛く、「普通に、普通に」という言葉が口癖のようになつており、知人で尊敬する女性にもこの子がなんとか普通になればと言つたら、「あなたは本当に普通が好きですね。普通のどこが良いの?この子は普通にはなりませんよ」と微笑みながら言われてしまいました。

かなり厳しい言葉ですが、ご自身もお子さんの個性を認めてお子さんの教育のために一緒に渡米するようなユニークな方でしたので、私の普通に普通にという言葉が耳についたのでしよう。

私も子供の個性を尊重していなかつたことにはつとさせられ、この子独自の、なにかキラリと光るものが見つけられるといいなと思いました。

そのことが造形活動に繋がっています。

二十一歳になつた長男は十年以上造形教室に通い続けて様々な作品を作つています。

ほのぼのした、動物のイラストやピンクやブルーの優しい色使いの作品は、大きな体に似合わず癒し系です。

彼の作品を見た方からは、ほのぼのして癒されたとか優しい気持ちになつたとか感想をいただいています。

### 一家でニューヨークに旅して

長男が幼稚園年中さんとなり、ニューヨーク駐在の友人が誘ってくれて、夏休み家族4人で滞在しました。長女6歳、長男4歳でした。

主人は会社を長く休めないので、行きは私一人で6歳の娘と自閉症の長男を連れて行くことになりました。

13時間もの長旅に、自閉症の長男が飽きずに騒がないでいてくれるかどうか、不安でしたが、小分けにしたお菓子、シール絵本、おもちゃなどを持込み、席も前に座席が無

い、キャビンアテンダントの向かいの席にしてもらいなんとかJ・Fケネディ空港にたどりつきました。

ありがたいことにニューヨークでの移動は全部、自家用車でしたので、長男が騒いでもストレスも感じずになりました、また時差ボケで夕方には寝てくれるのでゆっくりディナーしたり、ミュージカルを鑑賞したりできました（朝は早朝に目覚めて大変でしたが）ニューヨークの郊外のリツジウッドというところは街 자체が美しく、公園の中に民家が建つていて見えました。

友人の家もその街の中では特別大きい方ではないのですが4つのベッドルーム、広いキッチン、ダイニングルーム、広い2つのリビングルームで長男もおおらかに過ごせました。アメリカの豊かさに触れて家族で楽しい夏を過ごしました。

将来このように自然のあるところと大都会の両方を満喫してみたい。  
そんな夢も持つようになりました。



## 私の真実の色は何色？

そんな楽しい夏休みを過ごし、帰国して落ち着いた頃、自分の人生をいかに生きるか？ということを考えました。自閉症の長男の育児で精一杯で自分のことはすべて後回しになつていたのです。

私は何が好きなのか？私はどんな時幸せを感じるのだろう？

ほんやり分かったのは、私は綺麗なものが好き、美味しいものが好きということ、人が自分のアドバイスで変化して、喜んでいる時に一番幸せを感じることが分かりました。

大学時代の友人の一人は、私にせつかくお子さんが障がい児なのだから、良い見本があるのだから、勉強をして、障がい者問題の専門家になれば？と言つてくれました。

この言葉で天邪鬼な私は、反対に、絶対に仕事には子供のことを持ち込まない、子供に関係なく自分のしたいことをすると決心しました。

そして仕事を始めました。

そうは言つても長男はひとりで留守番したりできないので、今でもいろんな人のお世話になつています。

休日私が仕事になると主人が面倒をみています。もつと一緒にいてあげたいと思う時もあります。私も平日のうち3日は長男が帰るまでには帰宅して夕食も一緒に作ります。

私は自分の好きなことを見つけて仕事をしたので、今はとても幸せです。

その過程においては色々な方から温かい言葉や、無理解な言葉、はつと気付かされる厳しい言葉をいただき人生を考えてきました。

特に障がいを持つお子のお母さんには、本当に好なことを見つけて下さいと言いたいです。

障がいがあつても子供には育つていく力があります。全部をひとりで抱え込まないでください。

子供の発達の遅れを苦に自殺したり虐待したりというニュースを聞くたび、子供を別人格として尊重すればそうならないのにと思ひます。

自分の子供でも自分の所有物とは違うのです。そして自分が悪いから子供が障がいを持ったのではないのです。

生物学的に考えて多種多様な個性の人がいるからこそ人類は存続し続けています。

長男も、問題はまだ山積みですが、絵を書いたりアートを作つたりという行為を通して自己表現しています。

うまく見られたいとか人目を気にすることがないので、既成概念に縛られない、その作品には人を癒す力があります。

私は自分の人生に向かい自分の人生を愛すればこそ、障がいを持つた子供も、他の人も愛せるのではないかと思います。



## 今 の 私

今、私はカラー や自然な食を通して、人が体の外側からも内側からも、元気になるよう アドバイスしたり講演したりしています。

人が元気に美しくなるのに私が役立っているかと思うと、とても嬉しくなります。

### 色の持つ不思議さに魅せられて

私は四季の移り変わりを肌で感じた幼少期から、様々な色彩に囲まれて育ちましたのでカラーに大変興味を持つていました。

長女を出産後、何気なく見ていた夕方のニュースで、アメリカでは似合う色をアドバイスする職業があり、日本でもやっている所があるというニュースが報じられていました。実際にモデルを使って似合う色とそうでない色の違いを見せていきました。

私も自分に似合う色をみて貰いたいと思いました。その機会はそれから、5年後に訪れました。

ただ、結果は納得のいかないものでした。

友人から「この先生だつたらきっと近藤さんも納得するわよ」と紹介された先生に本当に私に似合う色をアドバイスして貰いました

その手法は主観に頼らず、様々な客観的な検証を行い、誰から見ても似合う色や、本人が一番自分らしさを發揮できるイメージを提案すると言うものでした。

私はこれこそ、私の探し求めていたものだと、とても感動し、この先生からパーソナルカラーリー分析を学びました。

その後、人に似合う色をアドバイスする際にもっと色そのものに詳しい方が良いアドバイスができるのでは?という思いから、さらに色彩の勉強をしました。

そして色彩能力検定1級の資格を取りました。

自閉症の長男が起きている時は何もできないので真夜中や、子供を預けてスクールに通う時間を作り、工夫して勉強しました。

3級、2級と順調に取れたのですが、1級は二次試験もあり大変でした。

カラーコーディネートを職業にしている以上、絶対に1級に合格したいと思い、バスに乗っている時、お風呂に入っている時、トイレに入っている時・笑

少しの時間も無駄にしないように頑張りました。

随分無理して頑張ったなあ」と思いますが、好きだったから夢中でやれたと思います。もつとカラーに対する専門的な提案がしたいと思い、1級の上のカラーデザイナーと言う資格も取りました。

その後、カルチャースクールで教えたり、個人に似合う色やイメージをコンサルティングしたりとカラーのお仕事で経験を積んで行きました。

初めてパーソナルカラーの資格を取ったのが93年ですから、13年のキャリアになります。



## 自然な食の大切さ

また、私が忙しく働くうちに、家族の食生活がおろそかになり、主人と長男のアトピーが悪化するということが起きました。そのころマクロビオティックに出会いました。

マクロビオティックについては語ると大変長くなりますが、動物性の食物を極力取らない自然な食事で、物事を全て陰と陽で捉え、そのバランスが取れることが大変良いという考え方です。

さらにローフードと言う加熱調理しない食べ物をできるだけ取ることで、体に負担をかけず健康になるとという考え方出会い系いました。

家族で2ヶ月食改善に取り組みました。その結果4人で30キロもの減量となり、主人と長男のアトピーも著しく軽減しました。

今でも無理のない範囲で陰陽のバランスをとる。なるべく加熱してない食物を食べると言うことは心がけています。そのため体調もとても良く、体重もキープできています。

食に気をつけるようになつて普段の生活も自然な方が良いということに気付きました。  
食以外でもなるべく化学薬品を使わず、天然の物を使う、自然な生活を心がけるよう  
にしています。

これからお子さんを生む若い世代や、健康が気になる熟年の方たちに向けて自然な食  
の大切さを講演でお話したり、ネットで発信しています。



## カラーを活かす

私が行つているユニークなセミナーの一例をここに紹介します。

何気なく選んだ色にも自分自身も知らない自分が投影されています。好きな色で包まれると安心を感じます。またその色をほかの方にメッセージとして使うこともできます。

似合う色で装うことで、自分を最高に美しく元気良く見せる効果もあります。

私は、自分自身のブランド力をアップしたい。色を使って自分のメッセージを効果的に社会に伝えていきたい。そんな方たちのために、パフォーマンスを上げるカラー戦略というセミナーを開催しています。

このセミナーの内容は、私が2005年に一年間、日経ビジネス社発行の月刊誌・日経情報ストラテジーに連載したものが基盤になっています

このセミナーを受講すると、こんなスキルが身につきます。

\* カラーを媒体として潜在意識を顕在化することにより、自分では想像しえなかつた自分の強みを発揮する事ができます。

\* 似合う色やベストなイメージがわかることによつて自分自身をイメージアップすることができます。

自分に似合う色を知るとどんなメリットがあるのでしようか？

第一印象がアップし顔色がよく見える、若々しく見える、信頼感が増す、無駄な買い物が減る、等など・・

あげたらキリがないほど、その効果は絶大です。

しかしながら、簡易診断やアナリストの感性や主観による診断により、その結果になんとなく納得がいかないという方が多いのも事実です。

私は、大統領選やハリウッドスターたちに広く活用されている米国のカラー診断の理論と長年の研究実績に基づいたカラー分析を行つています。

これにより客観的で効果的なカラー分析を手に入れる事ができます。

様々ビジネスシーンにおけるカラーの活用を学びます。新商品キャンペーン、社内会議の演出、会見、講師、プロフィール撮影時の装いに役立ちます。

セミナーの対象者はこんな方です

1. 人前に出る機会が多い経営者、講師の方
2. 営業職で人に会うことが多い方
3. カラーセンスが仕事に役に立つ広報部門の方
4. 新たな自分の強みを発見して仕事やプライベートに生かしたい方

さらに個人向けサービスとしてはこのようなことをしています。

### パーソナル・カラーコンサルティング

個人に対して似合う色、癒す色、の提案  
自分でも知らなかつた本来のあるべき姿、強み、ベストなイメージの提案を行つてい  
ます。



具体的にどのように行っているのか、動画を製作いたしました。巻末にURLを載せておりますので、よろしかつたらご覧下さい。

コンサルティングを受けられた方対象には以下のサービスも行っています・・・  
買い物同行、ワードローブ提案、マイクアップレッスン、プロフィール写真撮影

カラーコンサルティングを受けた多くの方々の感想は

- ・似合う色と好きな色は違う事に気づいて良かつた。
- ・似合う色が分かり自信が持てた。
- ・新たな自分の魅力を発見した。
- ・カラーの効果的な使い方がわかつてよかつた。というのがあります。

人がイキイキ輝くのを見るのが好きなので、喜んでいただけるととても嬉しいです。



## これからの私

私がミセス日本に応募したのは常に美というものを考えていましたからです。

若い個体としての美しさがもてはやされ、花の命は短いという言葉にもあるように、年月を重ねた女性からは美が失せてしまう。

そんな思いに私たち駆られています。

しかし、時々びっくりする程上品で綺麗な年月を積まれた方にお会いすると、美は若いうちだけと言う考えは单なる思い込みで、年を経ることによって、人として経験を積んだ美しさがあると思いました。

自然な生活をしている時、私たちは生き生きと毎日を送れると思いました。

私の考える自然とは、成り行き任せとかそのままと言う事ではありません。

世の中の風潮に流されずに昔から良いとされてきた先人の知恵を重んじるとか、感情に流れずに可能性から生きるように自分を律していくことが基本の自然です。

私は子供の障がいを通して一度は自分自身の夢を諦め、人生を犠牲者として生きていこうとしていた、そんな私でも自分の好きなこと出会い、自然な生活をすることで若く元気でいられている。

この事を多くの人に届けたいそんな思いで応募し、ファイナリストにならせて頂きました。

協力してくれた主人、長女、長男、仕事仲間、友人、そしてこの世に私を出現させてくれた両親に、言葉に尽くせないほど感謝しています。





カラーコンサルタント近藤美保

[http://youtu.be/2UWjC\\_QFPew](http://youtu.be/2UWjC_QFPew)

55歳となりフルスピードは出せないかもしれないけれど、少しでも世の中のお役に立つ人生がおくれたらと思っています。

ミセス日本グランプリの活動を通して出会った前向きで美しい素敵な仲間も私の宝物です。

これから的人生を社会にどれだけ貢献できるか、周りの方々に感謝して、今度は私がお返ししていく番と思っています。

その出発に際して多くの仲間がいる幸せを感じて筆を置きます。